

マタイ 12 章 22-32 節 「ベルゼブルの力ではない」

本日の箇所は、主イエスとファリサイ派の全面対決となった、「ベルゼブル論争」です。ベルゼブルとは、「悪霊の頭」です。悪霊とは、人間に取りついていろいろな病気や障害を引き起こすと考えられていました。22節で主イエスが、目が見えず口が利けなかった人を癒されたと記されています。その様子を見た人々は、驚き、「この人はダビデの子ではないだろうか」と言いました。しかしファリサイ派の人々は、「ベルゼブルの力だ」と主張したのです。主イエスは、このようなファリサイ派の人々に対して言いました。25節「どんな国でも内輪で争えば、荒れ果ててしまい、どんな町でも家でも、内輪で争えば成り立って行かない。サタンがサタンを追い出せば、それは内輪もめだ。そんなふうでは、どうしてその国が成り立って行くだろうか」と。サタンとは「悪魔」、「悪霊」と同じです。主イエスがここで、悪霊の追放を、「争い」と言っておられます。私たちは、苦しみ悲しみの現実の中で、そこから逃れようとし、苦しみ、悲しみを取り除いてくれる力にすがろうとします。自分の満足のいく答えを求めます。しかし、それでは何の解決にもならない、とイエスさまは言うのです。「わたしが神の霊で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ」(28節)、と。主イエスご自身が、神の霊で悪霊と戦い、勝利して下さる。私たちが出来ることは、癒しの業ではありません。主イエスのところに人々を、その人を、自分を連れていくことだけです。そして主イエスによって、神の国が私たちのところに来ている、と。だから私たちは、ただ主イエスを信じることを、求められているのです。そしてこのことこそが、ファリサイ派の人々が拒否したことでした。

主イエスは、私たちに、このサタンとの戦いに加わるように、共に戦うように求めておられます。私たちの日々の歩みはこの悪霊の攻撃にさらされています。様々な悲しみや苦しみ、神様の恵みから引き離そうとしています。私たちに對して主イエスを悪霊の頭であるかのように敵意を抱かせます。私たちはそのような厳しい戦いの中に置かれています。悪霊の攻撃は実に巧妙です。心の隙間に入ってきます。主イエス・キリストは、私たちがサタンの力と、またそれによってもたらされる様々な苦しみや悲しみの現実と、逃げずに正面から向き合って戦っていくことを求めておられます。主イエスはその戦いを、中心になって戦っておられます。主イエスご自身の苦しみと死と復活を通して勝利を確かなものとして下さっています。主イエスは言われます。「だから、言うておく。人が犯す罪や冒瀆は、どんなものでも赦される」とあり、また32節では「人の子に言い逆らう者は赦される」と言います。驚くべき主イエスのお言葉です。どんな罪を犯している者でも、どんなに神様を冒瀆している者でも、赦していただけるのです。赦されない罪などない、と。そして、主イエスはご自身の命をささげて戦われました。そして、戦いにおいて勝利されました。その救いを信じるところに、私たちの罪の赦しがあるのです。主イエスの味方となって、聖霊によって力づけられつつ、この戦いを主イエスと共に戦っていくことができるのです。その戦いは様々です。私たちそれぞれが、自分に襲いかかってくる苦しみや悲しみと戦っていくことでもあります。主イエスと共に歩いていく日々。歩みの全てが、その戦いです。私たちはその中に置かれています。しかし最後には、「復活」という勝利を与えられた希望を待ち望みながら、私たちに先立って共に戦ってくださるイエスさまと共に、レントの時を過ごしてまいりたいと願います。